

## 教育グループ 2 平成30年度 第3回 議事録

## 【年間テーマ 身体拘束】

平成30年 9月 1日提出

日付	平成30年 8月25日(土)			
場所	ホテルセントラザ博多		記録者名: 木下徳子	
出席者 (敬称略)	新小倉病院 中村 美星	香椎原病院 宮崎 紫織	丸山病院 増田 有亮	北九州八橋東病院 小畑 円
	福岡和人会病院 山崎 麻英	有吉病院 吉田 信代	東福岡和人会病院 坂本 礼子	社会保険稻葉病院 松岡 晶子
	シーサイド病院 木下 徳子			
テーマ	フローチャートと評価ツールの活用状況			
結論	<p>① 活用状況 入院時にフローチャート・評価ツールを使用してみたが、今回は対象者がいないなどの理由で評価までは至らなかった。しかし、ツール自体は活用しやすかったという意見が多かった。</p> <p>② 身体拘束の基準 話し合いが進むにつれ(備考欄を参照)病院によって身体拘束基準の違いがあった。グレーゾーンも多い。</p>			
決定事項	各々の病院で、身体拘束基準のマニュアルや資料を持ち寄り話し合う。			
備考	<p>(前回のツールの活用状況)</p> <p>フローチャートは、活用できたがすべての患者に当てはまるため評価ツールの活用には至らなかった。ツールの内容を、センサーマットからミトンへ変更して活用してみたが、ミトンを外すまで至らなかった。ミトンの使用が増えてきたため、話し合いにミトンも加えてほしい。</p> <p>センサーマットを身体拘束としている病院は、9病院中5病院のみ(うち1病院は同意書なし)</p> <p>身体拘束に関しての基準が病院によってバラバラであった。</p>			
次回討論項目	身体拘束の基準について話し合う。			

抑制廃止とケアの質を高める会 事務局

E-メールアドレス info@famcf.jp

(FAX.092-691-8961)